

広島女学院大学大学院 人間生活学研究科

修士論文提出に関する手引き

2018. 10. 10 改正

2021. 1. 20 改正

目 次

- 1) 修士学位授与方針、学位論文審査基準、研究指導方法
- 2) 修士論文提出までのスケジュール
- 3) 修士論文、修士設計の書式

1) 修士学位授与方針

人間生活学研究科は、2年以上在学して、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けて修士論文を提出、その審査に合格し、以下の目標に達した者に修士の学位を授与します。

人間生活学の各研究分野について専門的知識・能力を修得し、その分野の理論的・実践的発展に貢献できる。人間生活についての深い理解に根ざした研究成果を国内外に発信する表現力を備え、高度な専門的職業人として実社会で活躍できる、あるいは独創性のある研究者を目指してさらに研究をつづける能力を身につけている。

〔修士学位論文審査基準〕

人間生活学研究科修士課程は、本研究科の教育・研究目標に掲げる人材育成の方針に沿った研究活動を行い、所定の単位を修得し、提出された修士学位論文が次の審査基準を満たした時に修士の学位を授与します。

1. テーマ選定：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 研究方法の適切性：テーマに即した適切で合理的な研究方法がとられていること。
3. 論旨の妥当性：結論を導く根拠が客観的かつ論理的に提示されており、この根拠に基づき、当初設定した課題に対応する明確で独創性のある結論が提示されていること。
4. 文章表現力：論文に相応しい表現が用いられており、かつ論文題目(タイトル)、要旨、目次、章立て、引用、図表等に関して体裁が整っていること。
5. 倫理的配慮：研究計画の立案、遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理審査規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

〔研究指導方法〕

人間生活学研究科修士課程において、指導教授は、他の教員（本学修士課程担当の専任教員に限る）を、学生の研究テーマとの関連で指導や助言を受けさせたい副指導教員として推薦し、研究科委員会に諮り、副指導教員を決定することができる。副指導教員は、指導教授と相互に連携を図りながら、学生の求めに応じて、指導教授とは異なる専門性や観点に基づいた助言や指導を行う。指導教授・副指導教員は、実際の事象と向き合う課題設定や問題意識の持ち方についての重要性を指導するとともに、学生のテーマに即して、専攻・分野の研究のあり方（研究の広がりや様々な研究課題との関連性など）についても指導する。なお、学生には、自らの関心と指導教授・副指導教員の指導に基づき、他の教員の科目をより多く修得することが望ましく、これによって関連専門分野に関する幅広い知識や論文作成上の技術を修得させうる。

修了に当たっての審査は、指導教授を主査とし、研究科委員会が選んだ2名の副査委員を加えて、計3名で行う。研究科委員会において必要と認めたときは、他の大学院又は研究所等の教員等を副査委員として選出あるいは追加する。

最終試験に当たる口頭試問は、論文審査委員を含む研究科委員会が選んだ3名以上の試験委員がこれを行う。研究科委員会において適当と認めるときは、大学の教員等で高度の学識を有する者を試験委員に加えることができる。口頭試問は修士論文発表会を兼ね、研究科委員会に属さない教員、他研究科学生、学部学生の参加も可能なかたちで行い、本会にはこれら参加者よりの質疑応答も含む。

2) 修士論文提出までのスケジュール

年次	時期	学生		大学・指導教員等
1年	4月	*指導教授届提出	→教務課	指導教員の閲読・認定
	4月中旬(登録完了後)～9月末	*研究公正～Research integrity～(eラーニング<大学院生向け>)の受講		
	10月31日 12:00 (休日の場合は翌日)	*学位論文題目提出	→教務課	指導教員の閲読・認定
2年	4月	*論文計画書提出	→指導教授	
	6月	*修論中間発表会資料提出	→教務課	指導教員の閲読・認定
	7月	*修論中間発表会		
	9月30日 17:00	*学位論文題目変更届提出	→指導教授	指導教員の閲読・認定
	1月20日 12:00 (休日の場合は翌日)	*学位論文提出締切 *要約提出	→教務課 →教務課	指導教員の閲読・認定 指導教員の閲読・認定
	1月下旬			人間生活学研究科委員会で審査委員を決定
	1月31日まで	*修士論文発表会(口頭試問)		審査委員による審査
	論文発表会3日後まで	*製本用修士論文提出 *製本代支払い	→教務課 →教務課	
	3月1日			人間生活学研究科委員会で修士論文合否審査・修了判定
3月下旬			学位記授与	

※ 詳細な研究指導方法は、[特別研究]の授業に当たる「生活文化学特別研究Ⅰ」、「生活文化学特別研究Ⅱ」、「生活文化学特別研究Ⅲ(修士設計)」または「生活科学特別研究Ⅰ」、「生活科学特別研究Ⅱ」、「生活科学特別研究Ⅲ(修士設計)」のシラバスに明示する。

※ 研究倫理eラーニングは「日本学術振興会研究倫理教育」のホームページで受講できる。

※ 修士論文の提出時の付記事項

提出期日：1月20日(休日の場合は翌日) 12:00

提出先：教務課

提出部数：3部

*修士論文は、一部ずつダブルクリップで留めて茶封筒に入れて提出すること。

封筒の表には「修士論文の表紙」を貼り付けること。

*論文提出の際に要約を3部提出すること。要約は指定の用紙を1枚目として5枚以内にまとめ、クリップで留めて修士論文提出用の封筒に入れること。また、要約はメール添付のデータでも提出すること。

要約データ提出先 gakujimu@gaines.hju.ac.jp

3) 修士論文、修士設計の書式

< 修士論文の書式 >

1. 用紙

- (1) サイズ：A4
- (2) 枚数：問わない
- (3) 紙質：白色で良質のものを片面のみ使用する。(透視可能な薄地の紙は不可)

2. 文字

- (1) 原則として横書き
- (2) フォント：基本的に明朝体（必要に応じ、必ずしもこれに限らない）

3. スタイル設定

(1) 文字・行数

1行文字数：40字（全角） 1頁行数：30行

(2) マージン（余白）

上端：45 mm 下端：35 mm 左端：30 mm 右端：25 mm 程度

4. 論文題目（タイトル）及び副題（サブタイトル）の表紙

- (1) 日本文及び英文で表記する。また、副題がある場合は、論文題目のすぐ下の行に入れる。
- (2) 論文題目、副題とも行の中央寄せ（センタリング）にする。なお、副題の最初と最後のハイフン（―副題―）をつける。
- (3) 氏名は、表紙下部に日本文、ローマ字で併記する。

5. 配列

配列は、白紙用紙（1枚）、表紙、目次、本文の順とし、参考文献、引用文献、注書き等は本文末尾に記載する。

< 修士設計の書式 >

1. 修士設計は論文（設計対象物の文献調査・分析・フィールドワーク等）と設計図面（平面・立体・断面・詳細図・模型写真等）の2部構成とする。
2. 論文部分の書式は、上記の修士論文の書式に準ずる。設計図面のサイズはA3としてもよい。設計図面・模型写真等のレイアウトは自由とする。
3. 設計図面は上記の2.とは別にA1サイズのをファイルに入れて提出する。

4) 各種提出書類の様式

以下に、大学院指導教授届、大学院指導教授届（変更）、題目届、題目変更届、修士学位論文審査資料、修士学位論文審査報告書の様式を提示する。